

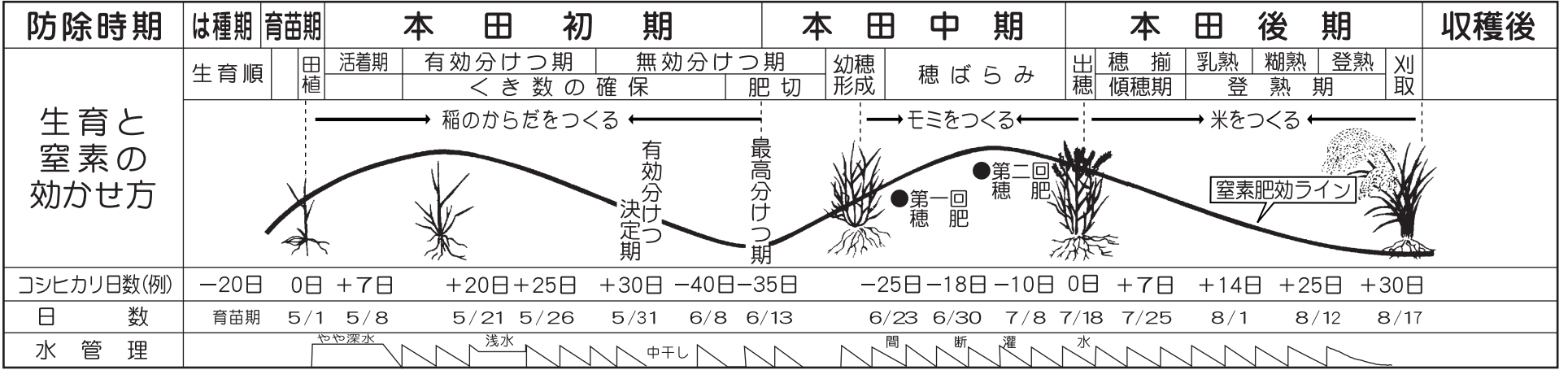


JA紀南 気象データ

# 令和7年 水稻栽培暦

J A 紀 南  
西牟婁振興局農業水産振興課監修  
令和6年11月作成

## 稲の生育と窒素の効かせ方



★土壌診断を行い、適正施肥に努めよう！

農業中毒の相談は日本中毒情報センター(大阪)TEL072-727-2499(24時間対応)

## 稲育苗箱の消毒

農業用浄化剤	対象	水10ℓ当り薬量	希釈倍数	使用方法
ケミクロンG	育苗箱、および育苗用敷紙	20g	500倍	瞬間浸漬またはジョウロ散布後、水洗し、水切り乾燥

## 施肥基準(10a)

土づくり対策	深耕 稲ワラ腐熟促進 石灰窒素 20kg/10a	農力アップ100kg+アヅミン40kg
--------	--------------------------------	---------------------

## 防除

防除時期	病害虫名	薬剤名	水1000ℓ当り 薬量	使用基準		
				収穫前日数	使用回数	
育苗期	種子消毒 (24時間浸漬)	ばか苗病 もみ枯細菌病 イネシンガシセンチュウ	テクリードフロアブル 200倍 スミチオン(乳) 1000倍	— —	浸種前 は種前	1回 1回
	は種時 発芽後	苗立枯病	タチガレン液剤 500倍	1箱当り 500ml	は種時及び 発芽後	2回以内
	田植直前	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネミズゾウムシ いもち病	スクラム箱(粒) (紋枯病も登録あり) 又は サンスパイク箱(粒)	1箱当り50g	移植 3日前 当日	1回
本田	出穂まで	いもち病	ダブルカットフロアブル 1000倍	100ml	穂揃期 まで	2回以内
		紋枯病	モンカットフロアブル 1000倍	100ml	14日前 まで	4回以内
		コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	トレボンEW 1000倍	100ml	14日前 まで	3回以内
	コブノメイガ(多発時)	マトリックフロアブル 1000倍	100ml	7日前 まで	2回以内	
後期	いもち病	ブラシンバリタフロアブル 1000倍 (紋枯病も登録あり) 又は ブラシンフロアブル 1000倍	100ml	14日前 まで 7日前 まで	2回以内	
		カメムシ類 (ウンカ類も登録あり)	スタークル顆粒(容) 2000倍 (3000倍)	50g (33.3g)	7日前 まで	3回以内
	ウンカ類幼虫	アロードフロアブル 1000倍	100ml	7日前 まで	4回以内	

## 一般品種の施肥例

標準タイプ	元肥		追肥	
	マップ264 (12-16-14)	30~40kg	出穂20日前 味穂542 20~25kg 尿素入NK化成2号15kg	出穂10日前 尿素入NK化成2号15kg
省タイプ	エムコート522 (15-12-12)	60kg		

## コシヒカリの施肥例

標準タイプ	元肥		追肥	
	マップ264 (12-16-14)	20~30kg	出穂20日前 味穂542 15kg 尿素入NK化成2号10kg	出穂10日前 尿素入NK化成2号10kg
省タイプ	LPSSコシ1号 (14-14-14)	40kg		

## 水田雑草防除(10a当り、それぞれ1回のみ)

田植	5日	10日	15日~ノビエ4葉期まで (サンパンチはノビエ3.5葉期まで)
	エンペラーフロアブル 500ml		※1 残り草の多い場合 サンパンチ1キロ粒剤 1kg(収穫60日前まで) 又は テックン1キロ粒剤 1kg(収穫60日前まで) 又は テックンジャンボ 500g(収穫60日前まで)
	エンペラー1キロ粒剤 1kg		
	エンペラージャンボ 250g		
キシュウスズメノヒエ対策 クリンチャーバスマ液剤 100倍(移植後15日~ノビエ5葉期まで)(但し収穫50日前まで2回以内)			

## 水田雑草多発圃の防除例

田植直後 サキドリEW 500ml(但し移植後30日まで)  
 植代後~移植前7日又は移植直後~ノビエ1葉期  
 田植後(10~14日) エンペラー1キロ粒剤 1kg(但し収穫60日前まで)  
 移植直後~ノビエ3葉期  
 残り草がある場合は上記表※1参照

## スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

- ①地域ぐるみで定期的に貝・卵の捕殺(卵はつぶして下さい)や溝さらえ作業を行う。  
集団捕殺の適期は5~7月、捕殺の際はゴム手袋を着用する。
- ②1~2月の厳寒期に水田を耕起して、発生密度を下げる。
- ③田植後の本田防除として下記の薬剤を散布する。

薬剤名	10a当り使用量	使用時期	使用回数
ジャンボたにくん	1~2kg	60日前まで	2回以内

- ④地かきは均一にし、田植後はできる限り浅水(1cm以下が望ましい)で管理する。
- ⑤水田の取水口と排水口に約5ミリ目の金網を張り、水路と水田における貝の移動を遮断する。

## 防除の注意点

- 隣接圃への飛散に注意。
- 防除器具の洗浄を行う。
- 使用基準を守り、生産履歴を記載しましょう。
- 本暦は紀南地域の基本的な栽培暦です。栽培管理は気象条件や生育状況により調整して下さい。
- 本防除記載の農業の登録内容は令和6年10月末日現在です。

## 収穫後雑草防除

水田作物刈取後 (雑草生育期)	1年生雑草	タッチダウンiQ	薬量 250~500ml/10a (散布水量25~100ℓ/10a) 薬量 500~1000ml/10a (散布水量25~100ℓ/10a)	1回
	多年生雑草			

## 粒剤・豆つぶ剤一貫防除

防除時期	病害虫名	薬剤名	10a当り 薬量	使用基準	
				収穫前日数	使用回数
田植直前	いもち病・紋枯病・ウンカ類 ツマグロヨコバイ・コメイチユ コブノメイガ・イネミズゾウムシ・ツバキコガ イネドロオシムシ・イネミズゾウムシ	スクラム箱(粒)	1箱当り50g	移植3日前 当日	1回
本田中期	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ 又は ゴウケツモンスター(粒)	250g	収穫35日前まで	1回
			3kg	出穂5日前まで 但し収穫45日 前まで	1回
本田後期	ツマグロヨコバイ・ウンカ類・カメムシ類	スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	3回以内